COLLEGE INFORMATION
甲子園短大通信
甲子園短期大学　発行

平成二十五年度 入学式

平成二十五年度入学式は四月四日、甲子園学院理事長久米知子先生はじめご来賓の方々のご臨席のもと、学院高校講堂において執り行われました。

開式後、瀧上凱令学長から以下のような式辞がありました。「甲子園学院の建学の精神は〝黽勉努力〟〝和衷協同〟〝至誠一貫〟の三つです。甲子園短期大学のすべての構成員は、この三つの訓えを校訓とし、教育の根幹に据えております。時代は大きく変わりました。しかし、今の時代に生きる皆さん方にも、この訓えは非常に大切なものと言えるでしょう。皆さん方はこれから、何度も何度もこの校訓を聞くことになるでしょうが、ぜひしっかりと身に付けてください。さて、世界は今大きな時代の変わり目を迎えております。この先、社会がどうなっていくのか、まったく分からない状態です。皆さん方は、そのような社会でこれから力強く生きていかなければなりません。そのためには専門的な知識と技能を身に付けておくことが必要です。しかしながら、世の中の変化は急激ですから、身に付けた知識や技能が古くなってしまいます。知識や技能を身につけるだけでなく、知識や技能の身に付けかたも学んでいただく必要があります。もう一つ身に付けていただきたいのは幅広い教養です。これからの二年間、この大学で専門的知識と技能を身に付け、幅広い教養を身に付け、自分を磨いていかれることを期待しております。二年間はあっという間に過ぎてしまいます。勉学に当たっては受け身で教えられるのではなく、自発的、積極的に取り組み、学友や教職員との交わりを大切にして、お互いに力を合わせて、二年間のキャンパスライフを実り多いものにしてください。また、大学祭などの行事を通じて、クラスメートと共に沢山の楽しい体験をしてください。多くの友情を育ててください。」

これを受け新入生代表西澤ちさとさん（生活環境学科）のお礼の言葉と、「校訓三綱領である黽勉努力・和衷協同・至誠一貫の教えのもと、人格形成に努めることを誓います。」との宣誓があり、厳粛な中にも和やかに入学式を終えました。

エキウムによる研究・地域貢献

【本学の園芸実習場にて エキウム栽培】

エキウム属植物（ムラサキ科）は六十種が、マカロネシア（マデイラ諸島、カナリア諸島など）、ヨーロッパ、西アジア、アフリカ北部および南部に分布しています。

カナリア諸島原産の野生種二種を親とする交雑種は、平成十九年に日本で初めて本学イネーブルガーデンで開花しました。

エキウムの開花に合わせた一般公開も、今年で七回目を迎え、地域の恒例行事として定着しています。

NHK神戸、新聞五紙（朝日、神戸、産経、毎日、読売）、ベイコムケーブルテレビの取材がありました。

五月十四日、十五日、十八日の公開日には、三日間でこれまで最多の約五五〇名の方が見学に訪れ、美しく咲き誇った花を堪能していただくことができました。

地域の方々を中心に、遠くは東京都や静岡県からも参加していただき、本学の研究活動についてご紹介することができました。

食品会社や農業機器製造会社、観光施設など、専門家の見学も多く、大阪府立能勢高校の農業クラブも見学に訪れ、交流の輪が広がりました。

【新しい養蜂技術の開発と利用】

北アフリカ北西部沖に位置するマデイラ諸島原産のエキウム・カンディカンスを蜜源とした養蜂に平成二十二年度から取り組み、成果を上げています。

五月二十八日には、甲子園学院小学校の一年生を迎え、蜂蜜作りの説明を行った後、蜂蜜搾りを行いました。その様子は、新聞四紙（朝日、神戸、産経、毎日）の五月二十九日付朝刊で紹介されました。

今年は、栽培面積わずか十五㎡ほどのエキウムの花壇で、約二百キロの良質な蜂蜜が採取できました。

化粧品メーカーからも注目され、本学産の蜂蜜を使った化粧品の開発も進められ、今秋には全国で販売される予定です。エキウムからの蜂蜜採取について問い合わせが数多くあり、各方面から注目されています。

生活環境学科は今
『多彩な授業』

生活環境専攻は本年度よりフィールド選択制になりました。Ⅰ回生は「食と健康」「サービスビジネス」「園芸療法」「医療事務」の四フィールドから希望するフィールドを選択し、専門知識の習得や資格取得に励んでいます。

「食と健康」フィールドを選択した学生はクッキングの授業が本格的に始まり「ご飯、卵の薄くず汁、ピーマンと牛肉の炒めもの、きゅうりの甘酢漬け」に挑戦しました。本格的な中華料理に悪戦苦闘しながらも、学生からはフードコーディネーター三級資格取得への意欲が伺えました。

Ⅱ回生は、非常勤講師で井上恵子フローラル・アートスクール校長でもある井上恵子先生のフラワーコーディネートの授業で食卓の演出について学びました。花の色や高さ、向きを工夫して個性豊かなアレジメントをすることができました。

また、四月には生活環境専攻と介護福祉専攻のⅡ回生が、インテックス大阪で開催された「バリアフリー展」を見学し、移動用リフトや車いすなど最新の福祉機器や介護用品に触れ、体験しました。介護食コーナーでは、ペースト食や軟食を試食するなど積極的に情報収集する姿勢が見られました。

介護福祉専攻のⅠ回生もようやく短大での生活に慣れ、介護福祉士資格取得に向けての授業や実習に取り組んでいます。なかでも、フィールドワークは学内で学んだ知識の実践や応用の場となります。

初めてのフィールドワークとして五月に、地域の福祉施設の利用者の外出に付き添い、北山緑化植物園で交流を図りました。五月晴れのもと、皆でお弁当を食べ、緑豊かな園内を散策しました。

利用者とのコミュニケーションや段差の多い公園内での車いす介助は初めてで大変でしたが、利用者の気持ちに触れ、改めて介護福祉士資格取得の気持ちが強くなりました。九月からは、障害者施設以外に複数の施設での実習が始まります。本格的な実習に向けて、準備を進めています。

幼児教育保育学科は今
『現場で役立つ学びの習得を目指して』

幼児教育保育学科の学生は、幼稚園教諭や保育士を目指して勉強に励んでいます。

Ⅰ回生は、入学したころの緊張した面持ちから一転して表情が豊かになり、毎日賑やかに過ごしています。八月からの初めての保育実習に向けて、六月から七月にかけて実習先でのインターンシップを体験しています。

授業では手遊びを練習し、また対象年齢別に各自で絵本を選び、読み聞かせの模擬保育を行いました。絵本の持ち方や声の大きさ、手遊びの歌の音程やリズムの確認など、生まれて初めての人前での保育は戸惑いの連続でしたが、少しずつ自信がついてきたようです。模擬保育と並行して、実習記録や指導案の書き方も勉強中です。

ピアノの授業では、苦手意識を持っていた学生も自宅だけでなく空き時間を使って短大でも練習を積み重ね、ようやく楽しみながら演奏できるようになってきました。

先日は、甲子園学院幼稚園へ観察実習に行きました。子どもたちのかわいい仕草や表情に顔をほころばせ、先生方の細やかな配慮や子どもたちの様子を熱心に観察していました。

課題が多く、時々疲れた表情を見せることもありますが、実習生としてのマナーや心構えを聞く時の真剣な眼差しからは、将来に向けての夢や決意がうかがえます。

Ⅱ回生は、五月末から六月にかけて三週間、幼稚園にて教育実習を行いました。実習に向け、授業では各自で作成した年齢別の指導案をもとに模擬保育を行い、また授業外でも、絵本選びや教材作りに熱心に取り組んでいました。エレピアン室では、季節の歌や実習先の幼稚園から出された歌などを必死に練習する姿も見られました。

現場で子どもたちと触れ合い、先生方からご指導いただく中で、それぞれが自分の課題を見つめ直すことができました。

短大に戻ってきた表情からは、三週間を頑張りぬいた達成感と自信が見えました。授業では実習の振り返りを行い、これまでの反省を八月後半から始まる保育実習にいかせるように、お互いの教育実習の様子を熱心に聞き合っていました。

これから始まる就職活動に向けても、自分の考えを持ち、気を引き締めて臨んでくれる事を期待しています。

「甲子園学院幼稚園にて」

平成二十六年度　入試日程

＊選考方法等詳細は本学ホームページをご覧下さい。

区　分	エントリー期間（郵送出願期間）	課題説明日（窓口出願日）	入試相談日(選考日)
AO２期	7月 9日（火）～ 7月30日（火）	8月 3日（土）	8月17日（土）
AO３期	8月 7日（水）～ 8月27日（火）	8月31日（土）	9月14日（土）
AO４期	11月27日（水）～12月17日（火）		12月25日（水）
AO５期	平成26年 2月12日（水）～ 2月28日（金）		3月 5日（水）
推薦１期	10月16日（水）～10月28日（月）	10月29日（火）	11月 2日（土）
推薦２期	11月 5日（火）～11月19日（火）	11月20日（水）	11月26日（火）
推薦３期	11月21日（木）～12月 3日（火）	12月 4日（水）	12月 9日（月）
推薦４期	平成26年 1月 6日（月）～ 1月15日（水）	1月16日（木）	1月20日（月）
一　般	平成26年 1月29日（水）～ 2月12日（水）	2月13日（木）	2月17日（月）
社会人１期	8月28日（水）～ 9月12日（木）	9月13日（金）	9月17日（火）
社会人２期	9月11日（水）～ 9月24日（火）	9月25日（水）	9月30日（月）
社会人３期	10月 2日（水）～10月16日（水）	10月17日（木）	10月21日（月）
社会人４期	平成26年 1月 6日（月）～ 1月15日（水）	1月16日（木）	1月20日（月）

オープンキャンパス

平成二十六年度入試に向けて、オープンキャンパスを開催中です。

オープンキャンパスでは、学生スタッフが中心となって大学案内を行っています。オープンキャンパスに参加してくれた高校生や保護者からも、学生スタッフが親身になって進路相談に応じてくれるため、大変好評です。

毎回、各学科や専攻の魅力を体験できる模擬授業や各種イベントを行っています。

六月八日には『保育の授業体験』を実施し、「絵本の読み聞かせ」や「ピアノレッスン」を行いました。特に、ピアノレッスンでは、ピアノに不安を抱えている高校生を対象に、音楽の教員が丁寧に基礎的なレッスンをする場面も多く見られました。幼児教育保育の分野を希望する高校生が、多数参加していました。

また、オープンキャンパスでは毎回、様々なミニイベントを実施しています。

その一つが学生スタッフと一緒に作る「パン作り」です。出来上がったパンを食べながら、参加者同士や学生スタッフとの交流も深めています。保護者やお友達も一緒に参加しており、各回とも非常に好評です。

六月二十二日には『介護の授業体験』、七月十三日には『保育の授業体験』、七月二十七日には『サービスビジネスフィールドの授業体験』をそれぞれ実施しました。各イベントとも専門の教員と学生スタッフが協力して実施し、参加者の皆さんも短期大学の授業を体験する良い機会となりました。

今後のオープンキャンパスも、学生スタッフが中心となって短期大学の魅力を高校生や保護者にしっかりと伝えていきたいと思います。

平成25年度 オープンキャンパス日程

8月 4日（日）	8月17日（土）
8月27日（火）	9月14日（土）
10月 5日（土）	11月 9日（土）
平成26年	
2月 1日（土）	3月29日（土）

特別給付奨学金の授与式が行われました。

六月二十八日、本学独自の奨学金制度の一つである「特別給付奨学金」の授与式が行われました。今回は、瀧上学長より、二名の二回生に授与されました。

この奨学金制度は、頑張る学生を応援するという趣旨で設けられています。

選考委員会において、成績上位の学生を対象に、成績はいうまでもありませんが、履修科目数や勉学意欲、さらには取り組む姿勢など、総合的に審査され決定されました。

授与された学生からは、「この受賞を機に多くの資格取得をめざし、勉強を頑張りたい」「就職活動に向けて励みになる」と積極的な感謝の気持ちが述べられました。

この他に、定められた資格取得や検定に合格した場合の「資格取得等特別奨励金」があります。

短大での二年間は早いものです。積極的に、知識や技術を習得しようとする姿勢が大切です。

賑やかな我が家

特任専任講師　堀内　泉

我が家では、現在二人の男児の子育て真っ最中です。子どもがいない頃の生活からは一変し、想像もできないような賑やかな毎日です。

私の趣味の園芸では、夏野菜のゴーヤ、茄子、きゅうり、トマトなどの栽培を楽しんでいます。プチトマトの栽培は、幼稚園に通っている長男が自分で育てると張り切るので、私はそれ以外の世話をします。草木に水やりをしているときに「こうやるんだよ」と、水やりの仕方を長男から指摘されることもたびたびです。また、雨が少ない今年の梅雨は、お花やトマトもお水が飲みたいだろうねという話題になりますが、その話をした後、子どもたちは「のど乾いたでしょ」「少し雨が降ってよかったね」と顔を枝に近づけて話しかけています。この時、幼稚園や保育園などで感性が育っていることを実感します。

長男は、入園した頃から工作に夢中です。特に、幼稚園で行っている廃材を使った工作がお気に入りです。廃材は、ティッシュペーパーの空き箱、プリンなどの容器、ストロー、割りばし、牛乳パックなどがあり、使用したものは洗って乾燥させた後、幼稚園に持参させたり、我が家に置いたり、いつでも自由に選んで使えるようにしています。長男が使いたいものをリクエストするので、気が付けば我が家は廃材でいっぱいになっていました。

アニメ『ワンピース』が大好きな長男は、牛乳パックを使っていくつもの船を作ります。次男も主人に手伝ってもらい、同じように自分の船を作ります。作るだけにとどまらず、川へ流しに行ったり、入浴の際に湯船に浮かべたりして遊びます。遊んでいるうちに牛乳パックの接着はセロテープだとすぐにはがれてしまうことや、強い牛乳パックがそのうち型崩れしてくることを発見している姿を見ると、このような体験を通して工夫する力などが育まれるのではないかと思います。

My Favorites

私が想像していた子育ては、いつも子どもはニコニコし、おしゃれに整頓されたリビングの傍らで母親が微笑むといった光景でした。しかし、現実には、兄弟げんかの仲裁をしたり、工作の折り紙やテープ、廃材を広げたりとおしゃれとは程遠いリビングです。まさに想定外ですが、とても賑やかな我が家です。

高大連携講座　充実しています

今年度も本学の地域社会貢献の一環として行われている高大連携講座が始まりました。高校一・二年生を対象に、大学の授業を体験し、大学や専攻に興味を持つことを目的としています。近年は、兵庫県立伊丹西高等学校と兵庫県立尼崎高等学校から依頼を受け、教員が出向いています。

始まりは五月十四日で、伊丹西高等学校「総合ヒューマン類型」二年生を対象に、『保育と介護のコミュニケーション』の講義と実技がありました。田島准教授の専門であるレクリエーションの実技を保育・介護それぞれの立場で体験する楽しい講座でした。引き続いて、五月二十三日に一年生を対象に、平化特任准教授による『保育の仕事について』の講義が行われました。保育現場である幼稚園と保育所の違いや仕事の内容、保育者養成校での学びの話を聞くことにより、保育者像が具体的に見えたようです。五月二十八日に二年生対象では、新家特任専任講師による『子どもの遊び・手作り遊び』がありました。乳児と幼児の手の発達の違いを知り、絵本や駒を作って実際に遊び童心に返っていました。

六月からは、尼崎高等学校でも講座が始まりました。レクリエーション実技、手作り遊びに加え、今後は音楽に関する講義と実技も予定しています。

高校生にとって未知の世界を切り開いていく機会になると好評です。

また、甲子園学院高等学校対象の連携講座も全学年対象に始まっています。短大の施設内で授業を行うことによって、短大で学びたいという気持ちが高まっています。

短大の施設を利用した連携講座は学院高校に限らず、多くの高校が利用しています。時には先輩である現役の短大生がゲストで登場することもあり、楽しいひと時となっています。

高校生との授業を通して、教員も新しい発見があります。さらに充実した内容を提供できるよう教員も日々努力しています。

平成二十五年度　後援会総会開催

短大後援会総会が、五月三十一日午後一時半から、短大二階多目的演習室で開催されました。

短大側から瀧上学長、永藤学長補佐、吉井教務部長、新宅就職部長等が出席しました。総会では後援会会計の決算・予算が承認され、役員改選では、西山正夫会長、井上泰一副会長、田中俊弘会計、田中実会計監査が再任、新たに西澤弘泰書記、兼子努会計監査が選任されました。その後、短大側から本年度の行事予定や就職の現状等について説明があり、最後に出席保護者と担任との個別懇談の場が持たれました。

甲子園短大通信　第73号
（編集・発行）甲子園短期大学広報委員会
〒663-8107　西宮市瓦林町四一二五
TEL〇七九八-六五-三三〇〇　FAX〇七九八-六七-九一〇一
http://www.koshien-c.ac.jp